◀快晴の下、植栽作業が続けられた

日遊協共生の森・仙台

クロマツを1600本

南北の支部も応援、79人植林

日遊協は4月22日、みどりのきずな再生プロジェクト「日遊協共生の森・仙台」として、仙台市若林区荒浜一本杉南付近の海岸防災林（田ノ神地区国有林内）0・3ヘクタールにクロマツ1600本を植えた。同プロジェクトによる植林は今回で5回目。

参加者は前日21日の準備作業からの人も含めて79人。谷口久徳副会長（東北支部長）、知念安光理事（社会貢献・環境対策委員会担当理事）、社会貢献・環境対策委員会メンバー19人、東北支部ボランティア隊33人、北海道支部同7人、九州支部同5人、植栽指導の埼玉森林サポータークラブ6人、認定NPO法人ワンデーポート関係者3人、それに事務局4人となっている。

21日は委員会メンバー、東北、九州両支部有志、森林サポータークラブら計40人が植栽現場で準備作業を行った。そのあと過去の植栽地（荒浜地区、名取地区）で下草刈りを行った。生育は順調だった。

「5回目、今後も推進」

本番の22日は快晴。一行は午前10時に車に分乗して植栽現場に集合した。開会式が行われ、谷口副会長、知念理事らがあいさつした。谷口副会長は「5回目の植林になりました。皆さんのご協力で順調に続いており、ありがとうございます。来年はさらに力を入れて植林を推進していきたい」と述べた。このあと7班（8～12人）に分かれて、埼玉森林サポータークラブの指導で作業がスタートした。

植栽を終えて、笑顔で全員集合▶

参加者たちは植樹位置を墨出し（石灰でマーク）し、スコップやシャベルで植樹位置を中心に40㎝四方、深さ約20㎝の穴を掘る。苗木を置き、根を広げて植え、周りに土を入れたあと苗木を軽く上下に揺すり、足で踏んで空気を抜く。苗木を中心に周りの土を盛り上げ、マウンド式にする。埼玉森林サポーターたちが見回って、掘る深さや踏み固め方をコーチしていた。

作業は昼食を挟んで続けられ、午後1時過ぎに終了、後片付けをして仙台駅で解散した。一部のメンバーは前日の下草刈りを続行した。

先の東日本大震災では、青森県から千葉県にかけての海岸防災林が約140㎞被災した。林野庁は2013年に「『みどりのきずな』再生プロジェクト」として植林を計画、団体・企業・NPOに活動参加を呼びかけ、日遊協は社会貢献・地球環境整備活動の一環として応じた。

日遊協は、同年5月に仙台市若林区荒浜地区（0・16ヘクタール）でクロマツ770本、ヤマザクラ70本、14年5月に名取市下増田地区（0・17ヘクタール）でクロマツ777本、15年6月に東松島市矢本地区（0・63ヘクタール）で同3000本、16年5月に同市浜市地区（0・94ヘクタール）で同2200本を植えた。さらにこの年は、立ち枯れが目立った前年の同市矢本地区で同800本を補植した。

貯玉補償基金理事会

補償など2件を承認

一般社団法人貯玉補償基金（代表理事・庄司孝輝日遊協会長）は4月12日、日遊協本部会議室で第74回理事会を開き、2議案を審議した。

第1号議案では、東日本大震災による営業不能の2店舗を対象とするセンタ事業者「事業会費」の徴収免除を承認した。第2号議案は、埼玉県の整理法人1社への貯玉補償の実施を承認した。

報告事項として、貯玉補償基金の加盟状況、貯玉システム稼働店数、拠出金徴収状況などがあった。